

宿縁

十一月号

千葉県市川市国府台五丁目二十六番三十九号

浄土真宗
本願寺派 中原寺

TEL 0477-372102
FAX 0477-372102

私の正体を写す

鏡をもっていますか



自動車のデザインは何年かごとにモデルチェンジされています。特に外形は人によってさまざまに連想されます。その曲線がスポーツタイプでカッコいいと思うもの、全体にいかつて威張っているようで嫌だとか、ライトの部分が目の吊り上がっている感じとか、気を付けてみるといろいろに見えて面白いものです。

人間の見る目は多様でみんな見る目が違ってどれが良くてどれが悪いという判断はできません。右の絵は教科書にも載っている有名な一枚の絵です。

二人が向かい合っているようにも見える(黒の部分を見る)し、大きなカップの絵(白の部分を見る)とも取れます。目の錯覚画像でいろいろな絵があります。錯覚は思い違いで、特定の個人的主観の考えや評価から独立して普遍性をもっていない、いわゆる客観的な見方のできない人間の特性からくるものなのでしょう。これを自我意識から脱却できない人間の愚かさというのです。

『経教釈尊の教えはこれを喩うるに鏡のごとし、しばしば読みしばしば尋ねれば智慧を開発す』(善導大師「お念仏を伝えたる七高僧の一人」観経疏)という言葉があります。

仏法という鏡に映し出された自分の姿とはどのような姿なのでしょう。真実に目覚めた者の教えによって写し出された自分は、自己中心の心から離れられず、煩惱に振り回されて生きる愚かな姿です。つまり錯覚に惑わされながらうろろするばかりの哀れな自分に違いありません。

しかし、自分の愚かさが知られたということは、同時に真実のあり方、自分の目指すべき方向が知らされるといふことなのです。

なお「いくども読み、いくどもその心を尋ねるならば智慧を生み出す」といふのは、

自分が智慧を体得するというより、仏さまの智慧(尺度)が届いて、真実に導いてくださるということだと思えます。

これは釈尊の時代の話ですが、あるバラモンが王舎城におりました。バラモンはインドの四姓階級、つまり四つの階級(カースト制度)のうちいちばん上の階級です。バラモンは祭祀を司る僧侶階級、次のクシャトリアは武士、王族です。釈尊はこのクシャトリアの出身です。王舎城はマガダ国の首都で、王さまはビンバシヤラといい釈尊に帰依し、竹林精舎というお寺を建てました。そこで釈尊は朝な夕なに説法をしておられたといえます。

ところがそのバラモンは、クシャトリア出身の釈尊がさとりをひらいたといっているの聞いて大いに激怒しました。しかも自分の妻が釈尊の弟子になってしまったことを知ってもうがまんがなりません。

そこで人びとが竹林精舎に集まって、釈尊の説法を聞いているその場所にどなりこんできたのです。たくさんの人びとが見ている前で罵詈雑言の限りをつくします。人びとはみな唾然としてその様子を見ていました。そのとき釈尊の態度は、説法をしている時の気持ちのいささかもかき乱されることなく、静かに座っておられました。そのバラモンが思いの限り悪口、罵詈雑言を吐きつくしますと、釈尊は静かにこういわれました。

「あなたはお客さまをお迎えしたことがありますか」、そう聞かれてバラモンは、「あります」と答えました。すると釈尊は、「もしあなたがお客さまにお菓子を差し上げたとして、そのお客さんが受け取らなかった場

合、そのお菓子は誰のものになりますか」と聞かれました。するとバラモンは「私が出したのですから、相手が受けとらなければもちろんならぬのです。」「このように答えました。釈尊は、「今あなたはたくさんのお客さまを私にくださいましたが、私が受けとらないとしたら、そのことばはだれのものになりますか」と聞かれました。そのことばに接して、バラモンはハッと気づき、その場にひれふし、「どうか弟子にしてください」とお願いして弟子の一人になり、まもなくさとりをひらいたと伝えられています。

また本願寺三世覺如上人の書かれた「執持鈔」の中に、「平生のとき、善知識のことばのしたに帰命の一念を發得せば、そのときをもつて娑婆の終わり、臨終と思ふべし」とあります。私たちが普段日常生活を送っているあいだに、仏道に目覚めた方のことばを聞いて、なるほどと喜びの心、信の心をおこしたとき、そのときをもつて娑婆の終わり、臨終と思ふべきだ。これは私の自我の生活が終わる、その時をもつて自我の生命が終わって、仏の心に生かされる生活がそのとき始まるというのです。したがって古い自我の死、娑婆の終わり、臨終と思ふべしといわれるのも非常に味わい深いことばです。

日々、仏法という鏡の前に立ちたいものです。



【寺灯雑記】

○文化講演会の代替で常例法座が開催
10/17

本年も予定されていた第42回文化講演会はコロナウイルスの感染防止によりやむなく中止となったことにより、同日に中原寺本堂にて常例法座が開かれました。

講師は柏市西方寺の西原大地師。豊富な教養の知識を通して「正信偈」冒頭の御文を讀題にお話しいただきました。

この日は急な開催だったとはいえ、多くの方が聴聞しにご参拝いただきました。

○ご門主がご著書を発刊

大谷光淳ご門主が執筆された『令和版 仏の教え 阿弥陀さまにおまかせして生きる』（幻冬舎）が発刊されました。

これまで仏教や浄土真宗に関心はあったが、本格的に学んだことがない人のために、仏教や浄土真宗に対する素朴な疑問から、本質に迫る質問まで、一問一答形式で答えられている内容です。

【折々のことば】 「報恩講」

報恩講は、宗祖親鸞聖人の遺徳をたたえ、その恩を報ずる法要である。親鸞聖人三十三回忌に際し、報恩講と名付けられて以来、毎年宗祖のご命日を縁として、脈々と営まれ続けられている。

親鸞聖人は、阿弥陀如来の本願の教えを明らかにされ、その九十年のご生涯を、念仏の道へとすじに歩まれた。今、私たちが、浄土真宗の救いによるごびにあえたことも、聖人のご苦勞のたまものである。

報恩講に際し、蓮如上人はお示しになられた。

すみやかに本願真実の他力信心をとりて、わが身の今度の報土往生を決定せしめんこそ、まことに聖人報恩謝徳の懇志にあひかなふべけれ。

（御文章 三帖九通）

他力の信心を得て浄土の往生を決定することこそ、親鸞聖人のご恩に対するなよりの報謝となるのである。

【仏教語講座】「油断」（ゆだん）

「油断大敵」「油断禁物」という言葉があります。ちよつとした不注意でも、それがもとで大失敗をまねくこともあるので、気をゆるしたり、不注意は大敵である、という意味でしょう。

ではなぜ、気をゆるして、注意を怠るところを「油断」（油を断つ）というのでしょうか。

これも、そのもとをたどれば仏教に由来します。

『涅槃業（ねはんぎょう）』というお経に、むかし、ある王が、一人の部下に油のいっぱいに入ったつぼを持って歩かせ、「もし、一滴でもこぼしたなら、汝（なんじ）の命を断つ」と言い渡したことが書かれています。不注意は最大の敵だという戒めでしよう。

この故事から、注意を怠ることを「油断」といったということです。「油で命を断つ」ということでしょうか。断たれるのは油でな

く命だったのですね。

また、ウバキタ尊者という人が、ささげ持つていた油皿から不注意で油をこぼし、それを一老女に見つけられ、正しくない行為だと責められた話『付法蔵伝（ふほうぞうでん）』があり、そこから起こったという説など、諸説あります。

「油断は怪我の基（もと）」「油断一秒、怪我一生」といいます。

みなさん、くれぐれも油断なきようになさってください。

（大乘11月号より転載）

【法座・行事の案内】

○お仏具磨き・清掃奉仕

今回は、中止いたします。

○婦人会法座（正信偈を学ぶ）

*十一月七日（土） 午後一時

○壮年会法座

*十一月七日（土） 午後一時

開始時間を変更いたしましたので、ご注意ください。

◇宗祖親鸞聖人報恩講法要

*お逮夜法要

十一月二十日（金）午後二時より

勤行：初夜礼讃、御伝鈔拝読

法話：住職、前住職

*御満座法要

十一月二十一日（土）午後一時より

勤行：正信念仏偈

法話：山崎龍明師（小平市 法善寺）

講師にお迎えする山崎先生（武蔵野大学名誉教授）は、若い方たちにとても分かり易く、またときにするどく世相をとらえ仏教をお伝えされています。是非ご聴聞ください。

※コロナウイルス感染対策のため、本年はお斎の接待はございません。

ご了承ください。

○教行信証を学ぶ（行文類―正信偈）

*十一月二十八日（土） 午後二時

講師：前住職

※各法座・行事にご参加の際はマスクの着用をお願いいたします。

※前住職が築地本願寺報恩講で法話

当寺前住職が十一月十五日の築地本願寺報恩講にてご法話致します。築地本願寺の報恩講も今年は規模を縮小しての開催となりますが、当日は「YouTube 築地本願寺チャンネル」にてオンライン配信されます。是非ご聴聞ください。

*十一月十五日（日）午後一時一〇分より
四〇分一席の法話です。

【十一月の掲示板のことば】

誰にでも
エールを送れる
そんな人になりたい！

※「YouTube 中原寺」で検索

前住職が10分程の法話を配信中です。